

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年12月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1196500019
法人名	東電パートナーズ株式会社
事業所名	東電さわやかグループホームさいたま
所在地	〒330-0071 埼玉県さいたま市浦和区上木崎2-2-1 渋谷ビル5階 (電話) 048-815-5512
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年12月5日

## 【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	7.9 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	5階建ての5階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	35,750円 + 実費	
敷金	有( 140,000円 )			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 525,000円 )	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	700 円	おやつ	円
	または1日あたり 円			

### (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大宮共立病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、駅前ビルの5階にあり交通の便が良く、近隣には商店街が多くある。ホームと利用者の家族等との信頼関係もあり、頻繁に家族等の面会もある。また、毎回の散歩時などに地域の顔馴染みの方や商店の方との交流があり、地域のお祭りや小学校の運動会への参加などを通じ、地域に周知されており、理解や協力も得られ易い良好な関係を保っている。運営推進会議開催にあっては、利用者一人ひとりの家族等に通知をして、ホームのケアや医療等について具体的に意見交換できる機会としている。職員は、日常的なケアの中で、ホームの基本的な理念を共有し実践している。また、自主的な研修参加や研修を受けやすい勤務体制の配慮などもなされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価等で示された災害対策や居心地のよい共有空間づくりなどの課題を具体的に検討し、実践のケアを通して取り組んでいる。利用者の状況に応じた決め細やかな実践がなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価の課題について取り組みがなされ、日々のケアに反映している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催される運営推進会議では、利用者の家族等や地域包括支援センター職員、民生委員などの参加があり、ホームの具体的なケアの内容や利用者一人ひとりの心身状態に応じた医療等の課題について検討や報告がなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等へは定期的なホーム便りで生活の様子を伝えている。また、家族等の面会が頻繁にあり、職員等に気軽に話しやすい雰囲気があるため、問題が生じれば随時職員と話し合いが持たれている。さらに、必要に応じて他の職員に伝達され検討がなされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の商店や地域の住民、小学校など、毎日の散歩や買い物の時の日常的な挨拶や地域行事などへの参加を通じて、ホームは地域に良く知られており、地域に密着している。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時より事業所独自の一貫した理念を掲げており、入居後も利用者が安心して暮らせるようにケアに努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員、家族は、日々のケアの中で理念を理解し共有している。また、各々の職員は、日々のケアや家族との信頼関係を築く中で、ごく当たり前にホームの理念の実践を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ダンスサークルや地域で活躍するボランティアサークルが定期的にホームに来訪している。また、毎日の散歩時などに近所の人々との挨拶や商店街の顔見知りの方との交流があり、ホームの存在が地域に周知されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期ミーティングなどで、自己評価及び外部評価で伝えられたことや期待したい取り組み項目などについて、管理者と職員間で話し合いが持たれている。意見や改善策などオープンに検討され、各職員のケアの実践に反映されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、年6回開催されている。ホームの行事やヒヤリハット、自己評価、外部評価、利用者のケアについてなどが主な内容となっている。会議の開催にあたっては、利用者家族等全員に開催告知と出席依頼の連絡を行い、毎回必ず家族等の参加を得ている。他にも地域の民生委員や地域包括支援センター職員などが参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何か問題があったときには電話で連絡を取り合い、相談に乗ってもらっているほか、具体的な課題について地域包括支援センターと話す機会を多く持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホームの様子や暮らしぶり、金銭状況などを伝える便りを各々の家族等に届けている。利用者の様子がいつもと違う場合などは、直接、個々の家族等に電話で詳細な状態と対応を伝達している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	度々面会に来る家族等が多く、そのつど意見等を受け付けている。対応した職員は連絡ノートに記入し、職員間の話し合いが持たれ、ケアの実践に活かされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が希望する時に休暇が取得できるように勤務体制に配慮している。新入職員については定期のお便り等で紹介しているが、退職職員については利用者の気持ちを大切に、さりげなく対処している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事例検討会(グループホーム協議会)や市、社会福祉協議会などの外部の研修、事例検討会、勉強会などに参加の機会を得ている。また、職員が研修に参加しやすいように、勤務ローテーション等に配慮がされている。研修等の情報は、資料回覧、職員ミーティングで伝達されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市南部のグループホーム協議会の研修、勉強会等に参加し、同業者との交流を通して、ケアサービスの質の向上や介護計画の作成等について情報交換などを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今まで使っていた馴染みのあるものをそのままホームでも使っている。個々の利用者の心身状態、生活のリズムや性格を事前に家族等から聞き取り、利用者一人ひとりへのケアのほか、声かけや声のトーンにも配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の状況によって、時には居室をうかがい昼食を一緒にとるなど、なるべく時間を共有するよう努めている。また、職員は、利用者とのかかわりの中から自ら省みることが多く、ことばの使い方や重さ、大切さを実感している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族等から、生活歴や趣味などの聞き取りを行い、ホームでの日常の生活に活かしている。また、日々の生活のかかわりの中で、利用者の体調や伝えたいことなどを汲み取って、本人の思いや希望を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の各担当職員から課題を出し、職員ミーティングで検討した上で介護計画に反映している。また、介護計画作成に当たっては、ホームで独自に作成された時系列、項目別に整理された書式によって整理検討され、具体的なケアプランが実現されている。家族等が見て、本人の詳細な状況や検討課題、目標等が把握できる内容となっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は3か月ごとの見直しがなされている。骨折など本人の心身状態の急変については、主治医や家族等と連絡を取りつつ、現状に即したケアプランの変更計画がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者一人ひとりの状況によって柔軟な対応をしている。これまでに突発的な病院受診について、ホームからタクシーで職員が同行し対応したことがある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに月2回、内科医による訪問診療があるが、今までかかっていた主治医に受診することも可能である。皮膚科、眼科などの特殊な診療科への受診については、基本的には家族等が対応をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までの終末期のケアの経験から、定期ミーティングでそのつど話し合いがされ方針を共有している。また、終末期のあり方については、事前にホーム管理者や職員、かかりつけ医や家族などで話し合いがもたれている。運営推進会議でも、具体的な事例として話し合いがなされている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報は、施錠してある事務室の書庫で管理されている。利用者の呼び方や声かけなど、利用者一人ひとりの状態に即した尊厳を損なわない対応心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、介護全般のかかわり方として、初めから職員のペースで介助をするのではなく、本人の様子を見ながら状況に合わせることを意識して、利用者一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中、利用者自身がメニューや食材などを話題にする場面もあり、職員は一人ひとりへの声かけや介助を行い、食事を楽しむ雰囲気を大切にしている。また、自分の役割として自然な流れで片付けなどをする利用者もいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯はおおむね15時30分から18時であるが、特別な曜日を固定しないで、希望によって入浴がなされている。入浴時には見守りや介助等、基本的には職員が一人ひとりに個別に対応をしている。リフトも活用されて、安全安楽な入浴が実施されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が希望する趣味や外出、食事の片付け、歌や軽い体操、ホームの掃除など、多様な役割や楽しみを出来るように、職員は可能な限り支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎回の散歩では、一人ひとりの心身状態に応じてホームからのルートや距離も考慮している。また、ホーム1階の花壇の水遣りや、外食、季節によってはお花見や地域の小学校の運動会への参加、地域のお祭りに出かけるなど、外出の機会が多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路沿いの駅前ビル5階にあるため、原則的にはエレベーターから上がってすぐの玄関は施錠している。しかし、ホーム内は事務室を除いて自由に出入りすることができ、外出の希望があれば対応できる体制にある。施錠については、以前家族等より安全確保のための要望があり、検討されて現在に至っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対応マニュアルもあり、年2回の避難訓練を実施している。利用者も参加し、消防署の協力も得ている。建物内は、オール電化されている。		地域住民には日ごろの交流を通じてホームへの理解をより一層深めていくとともに、災害時の協力体制が得られるように働きかけることを期待する。また、今後予定されている自治会の避難訓練に参加することも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食と夕食は、高齢者向けの調理済みの食材を、各利用者の食事摂取状態に応じて量や形態を調整し提供している。食事摂取量や水分量などを常に記入し、利用者一人ひとりの状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のソファや食堂のテーブルの位置など、ゆったりと過ごせるように配置されており、利用者一人ひとりが自由に暮らしている。廊下や居間などの共有空間の飾りつけも生活や季節をさりげなく採り入れた飾りつけとなっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使い慣れているタンスや仏壇などを持ち込んでいる利用者もあり、居心地の良い居室の配慮がされている。		